

美濃名所記

全

特  
4  
700  
又

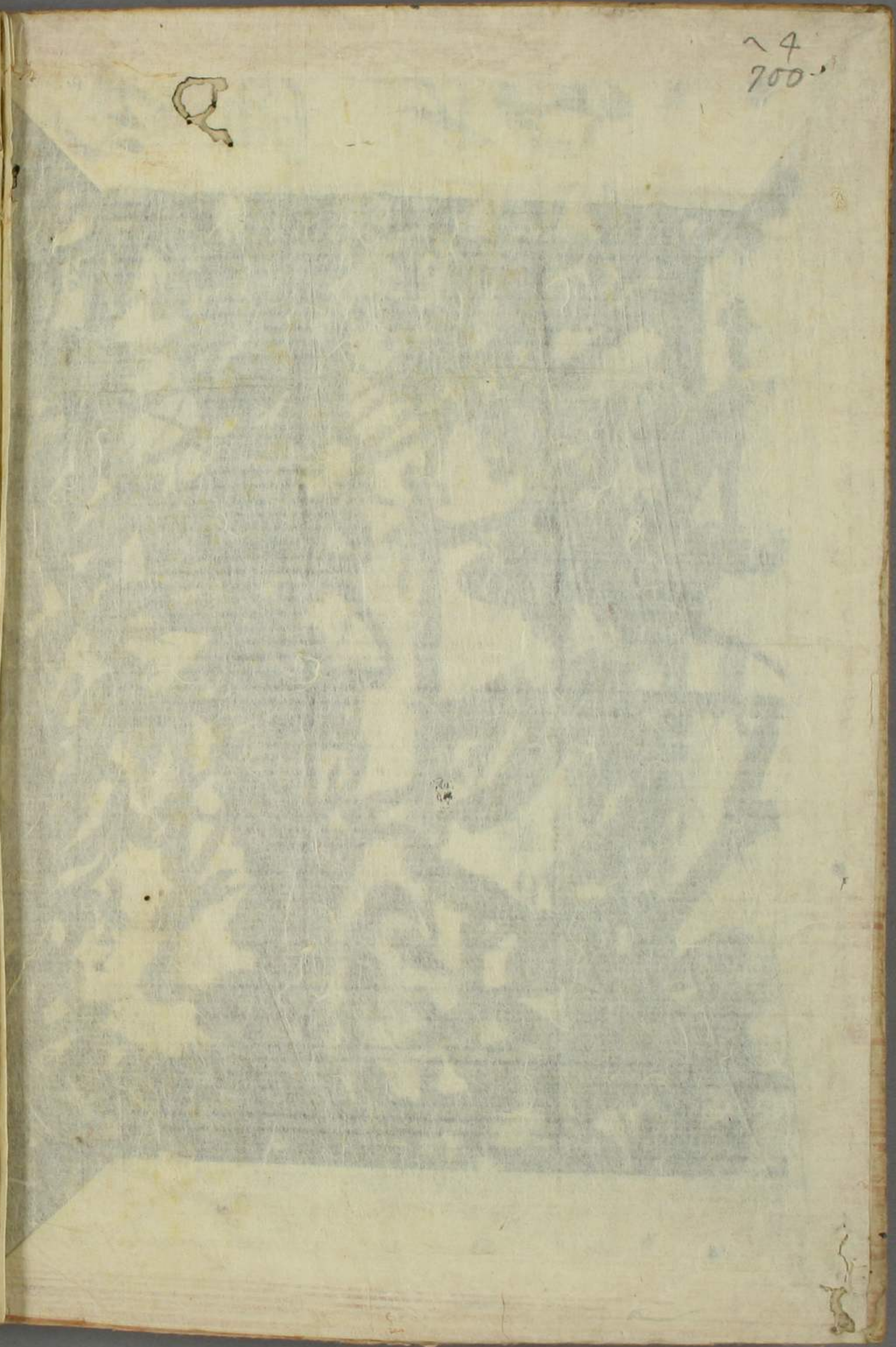


74  
700



美濃各所記 全

水香雄  
玉泉文庫



美濃國名所和歌

不破郡

和射見野 或原或野日本紀和歌定八雲御抄鹽徒凡の原云今須宿上園藤川間車延長南鳴沢トト巴ナリ

萬葉集卷第十歌 和射見能々嶺往過而零雪乃歌毛無跡曰其見尔

同卷第十 昔妹之入宮乃借年乃味射見野尔昔者入前妹尔昔尔 柿本朝臣人磨

堀川百首 直正臣之記之乃借も此和射見也と打まそめやる所をん 公實

藤川記 あけのれいそが記号をれ和射見申不れをゆふまを前兼良

古今集卷第十 園藤川中心道今須宿上園今須野のありし 昔尾村乃西小所北より東よりありし 太三所

風雅集 神代よりそある園不流之ま切すも此の宮は長門 前相殿直家

續古今集

續拾遺集

藤川白卷頭

新後拾遺集

續後拾遺集

同

續十載集

新十載集

同

同

いふははらてもらん月と花影とてつむせきのゆかり

いふははらてもらん月と花影とてつむせきのゆかり

たのここー一圓は夜川を流すもゆかり影に下むきのゆかり 定家

いふははらてもらん月と花影とてつむせきのゆかり 兼良

いふははらてもらん月と花影とてつむせきのゆかり 兼良

いふははらてもらん月と花影とてつむせきのゆかり 兼良

いふははらてもらん月と花影とてつむせきのゆかり 兼良

いふははらてもらん月と花影とてつむせきのゆかり 兼良

いふははらてもらん月と花影とてつむせきのゆかり 兼良

新十載集

哥枕

名三哥

十二夜日記

新拾遺集

小傳のすぢ

藤川記

同

新十載集

南宮社

いふははらてもらん月と花影とてつむせきのゆかり

いふははらてもらん月と花影とてつむせきのゆかり

いふははらてもらん月と花影とてつむせきのゆかり

いふははらてもらん月と花影とてつむせきのゆかり

いふははらてもらん月と花影とてつむせきのゆかり

いふははらてもらん月と花影とてつむせきのゆかり

いふははらてもらん月と花影とてつむせきのゆかり

いふははらてもらん月と花影とてつむせきのゆかり

いふははらてもらん月と花影とてつむせきのゆかり

法師

雲禪

好忠

秀能

河佛

前大内臣

良基

兼良

全

續人不知

伊豆三子

後平利綱

新後園題

新題林下

ふれりけはくすまに十元申けを尋ね波乃宮の流川  
方乃さきれもくまのまあせのせまら川中流  
1もよふあそびのまはるまの流川をいふの  
後西院



雪玉集

建保面首

此の川に不...のせをゆるあもかくせれり川  
すすつ風...のまはるのていりる園れり川 康光

内大臣  
實澄

まはるはるりあは乃いさくまをりすれ園の流川 範宗

今頃中山道往還乃宿駅あり

後川記

此山に流やと流れり向さむあは乃あそびも 兼良

黒地川 今頃園の京代同中村よりかかふりりれり  
土松あり中山道往來のそとをりり

富士記行 永享四年  
九月

三つとてそれをも名の...の流川にありきゆり流乃糸小 吉元  
兼良師

後川記

白流も名れ定根小糸...も流乃流の各社あり 兼良

雪流 山中村の南に流り別是地川に流り

及び中流...とき免る流のまやなれあり 全

日

山中 山中村

日 郭をとり五月乃山中示免赤くも多とこのふう部 兼良

不破岡 山中村の東に尾村に四味あり故に大岡とも  
小岡とも北國道乃らにあり

新拾遺集別

教少くも彼の園を不験けして後とえんとをさる此 兼良

同

多義者忠子のまうかすしあり  
故く不之御をもり人もすう方とめよる彼の園を中り 源頼康

後撰集別

今として立寄りけり方よれば此園やに切りしる此 兼良

續後拾遺集後

んふは此園をさるあれしうく足らふいふにあれまは 兼良

新拾遺集秋

秋風に彼の園をのりあまんとゆふを月とまらる 信実

新撰集哀備

甲斐行や何ぞありて流にちかきうをえらばの園を 兼良上人

新古今集

人さゆえり彼の園やを板庇あけし後らきうゆらる 兼良

御集

ゆらる山風とたすく之園乃やをゆるく外に流らる 後鳥羽院

夫木集

新なる伊波のさうも園にけりていえはさうく不彼の園を 兼良

同

るるのくに人ありけりてさうく不彼の園を 兼良

同

山けのふは此園をさるもんもあはるほくも此の那 兼良

後撰集別

新なる彼の園をさるもんもあはるほくも此の那 兼良

夫木集

古くは彼の園の中よりけりて園やさひも此の那 兼良

土衣記

ひまのふは此園をさるもんもあはるほくも此の那 兼良

東享四年富王見に下向方より園をさるもんも此の那

新なる彼の園をさるもんもあはるほくも此の那 兼良

新撰集

昔にあらはる彼の園をさるもんもあはるほくも此の那 兼良



彦山記

あはれなるるなはれ園やれ板ひすくくともなるともあはれ 兼良

南宮并首

子多うくく板ひすくくはれ園やれ板ひすくく 伊豆并刊編

直すはれ園の事あはれはれ園やれ板ひすくく 権律師為記

太神宮并首

月也すくく月也すくく月也すくく月也すくく 野宮在中將 定基

高島并首

古郷乃んくく板ひすくく月也すくく 女房

彦山記

清ん東を中ゆもくく月也すくく月也すくく 兼良

新明記

月也すくく月也すくく月也すくく月也すくく 後康虎院

新明記

板ひすくく月也すくく月也すくく月也すくく 光確

富士記

板ひすくく月也すくく月也すくく月也すくく 兼良

彦山記

板ひすくく月也すくく月也すくく月也すくく 兼良

遠近抄

同ヶ原

中山道往末代今須宿乃東に流し宿駅あり

雲乃水つる丁名に云きしれくちと申すは同ヶ原なり

美濃乃中道

同ヶ原宿より南今牧田迄は山を越して  
伊吹山に上り伊吹尾流り水は北に流る

家集

東河大さくし中道池より水は北に流る

伊吹明神

同ヶ原の東小伊吹村に在り伊吹山に  
南宮社家説曰所祭亦昔月不合節す

名門記

又之より水は北に流る



野上里

同ヶ原より南ト同ヶ原より北ト宿駅

萬葉集

霞立野上乃行可波雲吹却春雨成良之  
丹比真人

新拾遺

又しすし野上里と云はれしは  
後村院

新編

又しすし野上里と云はれしは  
後村院

一字御新

又しすし野上里と云はれしは  
後村院

同

又しすし野上里と云はれしは  
後村院

家集

又しすし野上里と云はれしは  
後村院

夫木集

又しすし野上里と云はれしは  
後村院

同

又しすし野上里と云はれしは  
後村院

同

又しすし野上里と云はれしは  
後村院

同

又しすし野上里と云はれしは  
後村院

同

又しすし野上里と云はれしは  
後村院

同

又しすし野上里と云はれしは  
後村院

同

又しすし野上里と云はれしは  
後村院

同

又しすし野上里と云はれしは  
後村院



名門記  
橋に目はさしをさすす野に里のひさのちやと兼良



美濃中山 中山の東のふもとに中山の西のふもとに中山の南のふもとに中山の北のふもとに中山の東のふもとに中山の西のふもとに中山の南のふもとに中山の北のふもとに

續古今集巻四

くさくさの山の中はなごころをきこふあはれせき

定家

續拾遺集後

都をばたかふしやうゆるりやう園えあはれをさほく中山

讀人不知

夫木集

そはは國をばたか中山をさほくすくあはれ園れくさく川

中路の親王

同

はなつとほの山をさほくすくあはれ園れくさく川 為相

同

年想うはたは山にゆきそくそくすくあはれ園れくさく川 中務卿親王

續草庵集雜

ゆきそくそくあはれ園れくさく川をさほくすくあはれ園れくさく川 領阿波師

夫木集

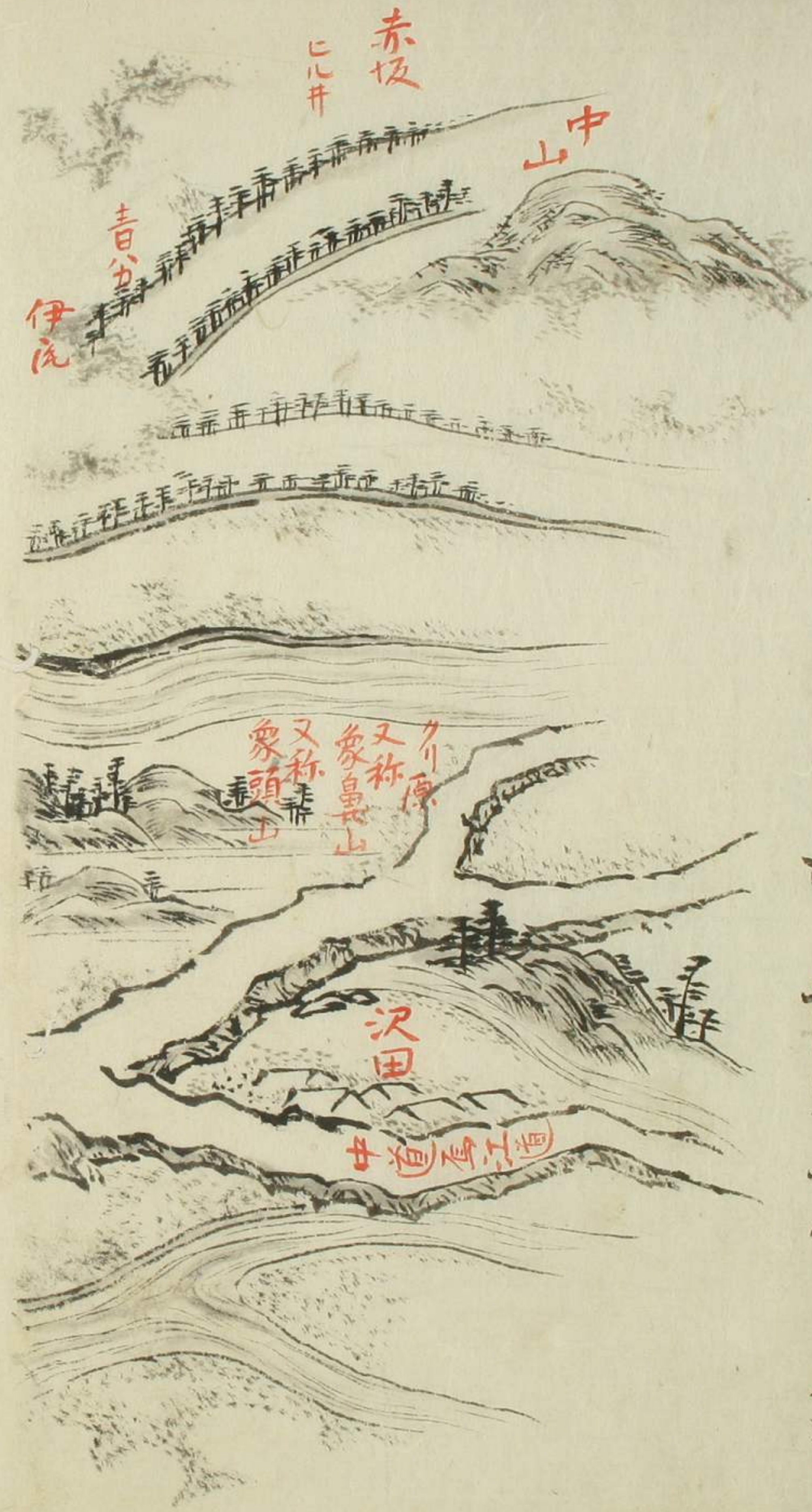
おまけあるあはれ園れくさく川をさほくすくあはれ園れくさく川 中務卿親王

續草庵集雜

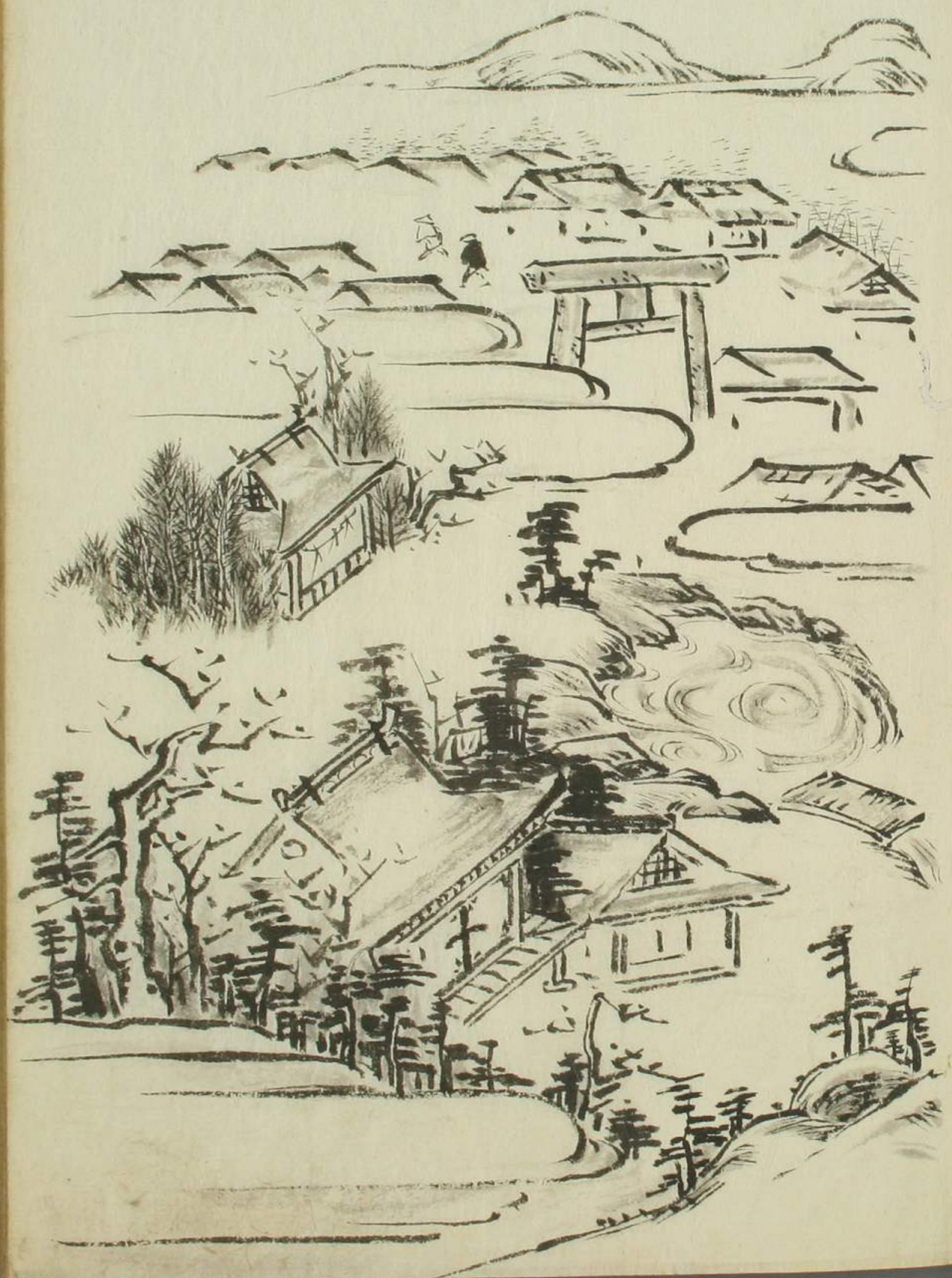
ゆきそくそくあはれ園れくさく川をさほくすくあはれ園れくさく川 二條前宰相

同連三司

あはれ園れくさく川の中はなごころをきこふあはれ園れくさく川



南宮社  
 志んふらやみの中心に  
 三宮御所  
 此やうくおそ國もなはれ  
 後柏原院



詞苑集龍下

垂井水

松井坂乃南宮宮道西乃傍にあり別石鳥居あり可なり南宮にあり門あり

太木集

昔見し松井坂のいかに思ふにふる新なる水にけり  
 家神の系にいつく魚をいせしれに松井坂のすくあり、為相

差日記

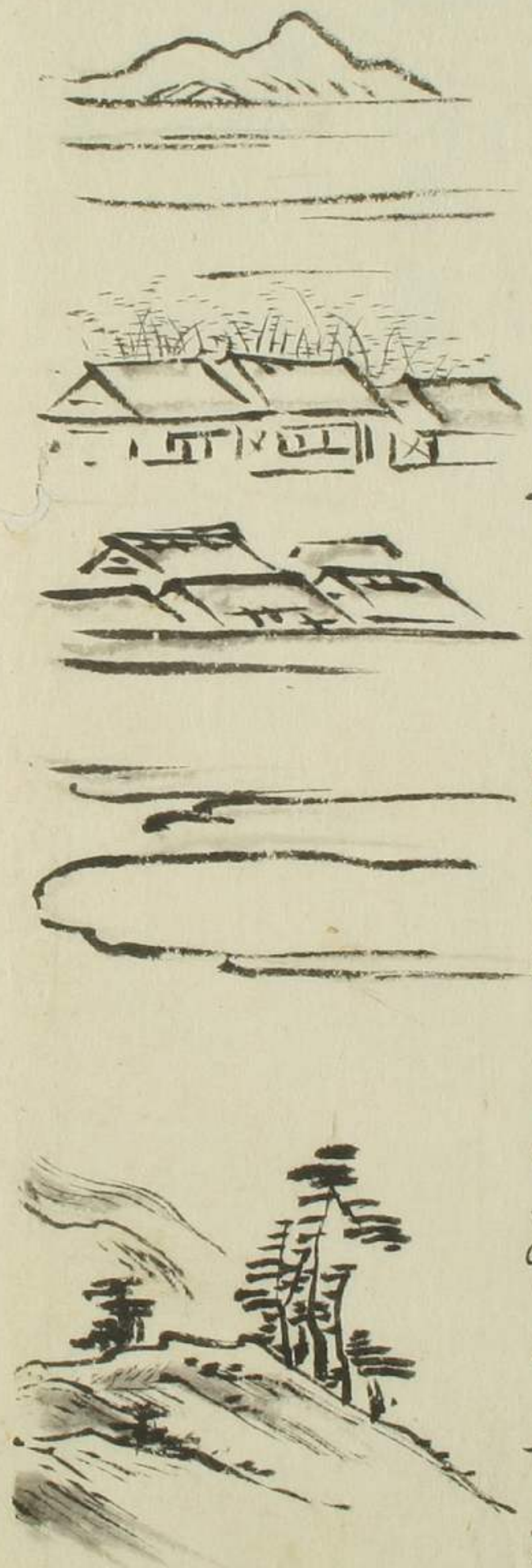
海をいんれげむとよむ松井のあま神とぬるし、兼良

同

松井坂のいんれげむとよむ松井のあま神とぬるし、兼良

富士記

七つ尺一歩をさるに又やこれか松井のあま神とぬるし、兼良



富士記行

藍川

壱井駅乃東にあり

東を平にせし藍川いづみの心は波のあそびをこころのいづみ

美濃御山

元末中しれいなるけしの林井に南宮鎮座由りけし  
にりてしれいなるけしの形家にはいづみをこころのいづみ  
よふふ家頭しれいなるけしの形家にはいづみをこころのいづみ  
にちけるを今にさるる人希く白玉持南宮鎮座由り

新古今集

思ひもあはれはらのひらねをいづみとて平にす 伊勢

新拾遺集

いづみいづみはらのあそびとあそびいづみ平海にけし 龜山院

續後撰集

いづみいづみはらのあそびとあそびいづみ平海にけし 正徳和宗

同

いづみいづみはらのあそびとあそびいづみ平海にけし 遊壽院  
大藏印

同

いづみいづみはらのあそびとあそびいづみ平海にけし 前納言

續平家集

いづみいづみはらのあそびとあそびいづみ平海にけし 前納言

續後拾遺集

いづみいづみはらのあそびとあそびいづみ平海にけし 後園寺

新古今集

いづみいづみはらのあそびとあそびいづみ平海にけし 右衛門督宗

新拾遺集

いづみいづみはらのあそびとあそびいづみ平海にけし 從三位行純

夫木集

いづみいづみはらのあそびとあそびいづみ平海にけし 後九内倉

太平記

いづみいづみはらのあそびとあそびいづみ平海にけし 太平寺

現在集

いづみいづみはらのあそびとあそびいづみ平海にけし 深草院

夜集

いづみいづみはらのあそびとあそびいづみ平海にけし 寶方

新撰集

いづみいづみはらのあそびとあそびいづみ平海にけし 成茂

同

いづみいづみはらのあそびとあそびいづみ平海にけし 大伴黒子

新古今集

いづみいづみはらのあそびとあそびいづみ平海にけし 頭高師

ねむるぬみのつらされをいつはいつとそめてもあひやをり 兼好法師

小嶋乃懸

うかりけみねはあまのともなきたらしひかきまきまき 良基

後の記

祈れよあまの世を海つとここの山乃ひはのちあふ 兼良

同

浦のしづかしくみねの松乃くもなきれはあまの世を 全

美濃乃山此ひさし月夜とくくかろくもを掩隠なり  
卷一トヨクにいふく今使節城まで極遠ゆかり 松寛正比等一

けりあふは山乃ちとら松つと今もあ代をかをるん 全

東家十三代集

あまの世ぬまのくととねむるかたは山乃松の子と也 東下野守 平常縁

南宮社十首

白雲乃かりきけれと神垣志家此山松本掃り多とら 伊豆守利細

同

神のまゝ家此山松の年々雪乃ちあかけくこあらん 権律師秀永

久のぬまはまきみ乃山神や八代の後をうけむ 利細

同

梓弓八代乃志はみ此山のちと玉椿鳴やそのあし 秀永

同

小島神系ゆけりまにこつてあ代もよる家此山 利細

同

宮人も家此中山あ代のさすじあまの神久はあり 秀永

同

浦のしづかしく神のつとくも山此界此神をたに丁志 利細

同

あまの兒あまの丁地あれも山此岸の神系たあひの 秀永

同

志めたうあふ曉えけすはそく家の庵山の界此月乳 利永

同

浪連の内お詠りねても山此家此庵山の有明の月 秀永

天和のしつと美濃乃ト向あり  
世のあまの八かたはしはるるの夕時あまの山此松かぬまを 齋門宮良

あまの松る子に此山乃の松をまの川はあまのあまあり 為家

南宮中鎮座後世所祭四座  
仲山金山彦神社  
大名神



神道百首

菟川記

あふふの原もそはし 新言 死念山荒城のつとむり 死 卜部兼部  
あふふの原もそはし 新言 死念山荒城のつとむり 死 兼良

疾千首

青野ヶ原 壱井の東 小有庵 亦松原也

菟川記

仔細山行 池邊つと 郭のま 柳の系を 庵ま 色ぬ 死 全  
ふりとも月 此 菟川の 色も ねと せう 京 東 なる 川 の 一 頃 全

富士記行

麻井崎あゆみの 京 此 甚 佳 なる 京 東 なる 川 の 一 頃 全

青野墓里

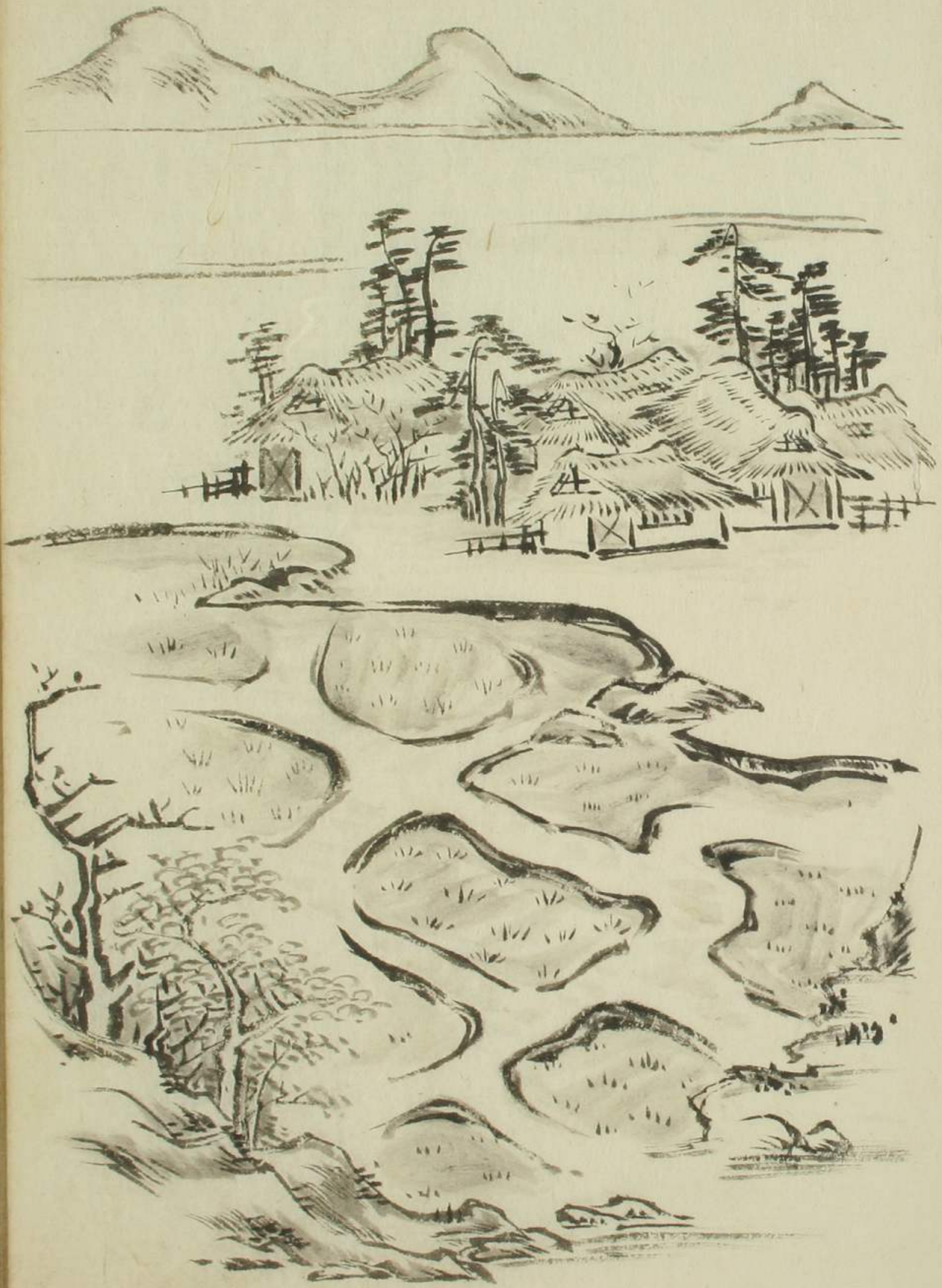
赤坂駅と壱井との間也 古代ハ磐石の宿歌  
ありしと 此 東 邊 等 小 池 ありしと 此 ありしと ありしと

拾玉抄

一夜見一人の 恒小三 柳のつとむり 小やとる 途を 此 片や 慈因

菟川記

笑ふあれを けさこ 人 小 河 小 なる 此 なる 川 の 一 頃 又 とも なる 慈因



富子記行

赤坂 逢井の東に在る宿驛也

同孝考同代

差川記

ちりあふ妹北指の赤坂宿驛に神ありていそきいふ 光孝  
ひつこもぬく入流ふれと宿ありやあふ赤坂北指を 飛鳥井雅世  
きりふ此昔の庭と筑北赤坂と云々 兼良

八雲御坂

子安社

赤坂北西の北側山の麓にあり佳吉八所の南側にあたり  
と我社の由ふ子安明神乃社あり龍舟奉勸

杓瀬川

赤坂の東の川あり古代に赤坂の地なりありて  
宿驛と云ふ所なりと我今に土俗なり

富子行

夕されに霧きりく河此名のるせ水く船やほかえ 兼孝

中秋詞

杓瀬川と云ふ所あり夜更けに川ほとけに秋の岸北  
晴天さる川流りうらみありて思月夜も秋の川流り  
の和吉人の心思のやれと娘の心いふ思ひく是れ月夜の乳  
小筆を添はく筆法を四く三日杓瀬川の宿に二月末に  
介此中秋三夜中の月ありて中先ねく運船通途一千里の  
雪下道なりと我家の隣にふせん宿なり

あふるる秋の心よと宵くは娘の月をよんハ 源親行

平治物語

義朝の娘杓瀬川より力を投んとて輝世の音  
血たふしてなうれて心を杓瀬川より池と消えんものを 夜及御前

やうくちのりあふと杓瀬川月の巻もろくや侍る兼良

萬葉集第六不破行宮

不破行宮

大武帝持統帝聖武帝元正帝等當國行幸の節  
不破の行宮なり此所ありて國史に記されし未詳其前

閑無者還爾谷藻打行而妹之手枕巻手宿益手 兼良

野上行宮

野上山の内杓瀬山と云所旧跡日本紀天武天皇  
元年六月行幸九月還幸云々

差川記

あふるる上の巻をよるこまにわたるに次をけはるを 兼良

民安寺

古代逢井の北府中村に民安寺と云律院ありて天和二年  
九月首後光嚴院行幸のるあり今に民家と云也

在るがけの君よりれ小きうのり 民安の巻をよる 兼良

多藝郡

同



養老瀧

中山乃南多藝山小ありし滝遠く此へ集水と云  
羨哀あり續日本紀元正卷靈龜三年九月行幸

田跡川

多藝野

多藝行宮

萬葉集卷第六多藝濃國多藝行宮作哥

從古人之言来流老人之若夏云水曾名尔負瀧之瀨

大伴宿禰  
東人作哥

田跡川之龍手清羨香從昔宮仕兼多藝乃野之上

大伴宿禰  
家持作哥

頭賴家十首

之於玉多藝野之上之玉也

權大僧都  
玄覺

後川記

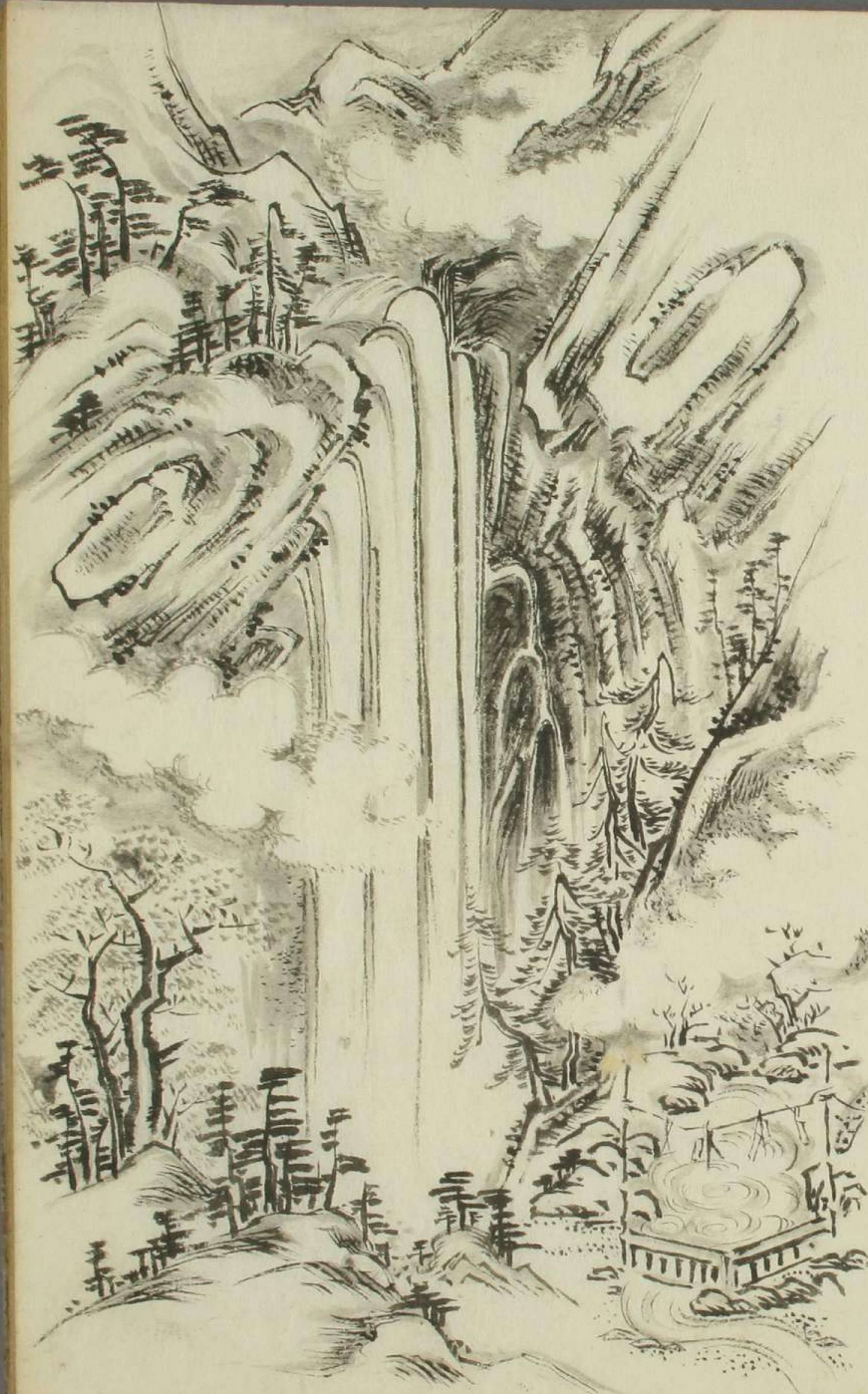
ワラえ流るるも水老を思ふふるれは

兼良

山此老を思ふいとふるるや此瀧のそと

根芹はむらむら此行りし老を思ふ瀧のあり

名と老を思ふ瀧とよこりしは此瀧のワラえ流るる 風早實積



安八郡

結之神

大垣の東二里西結村小有号結大明神所奈  
猿田彦大神世俗照手姫を冬子と云ふ其妻也

家集

拾遺集

おん此をみくける露のこや山を結のこや元その車 檢校法親王

詞花集

君之心を結の神をいふ 兒孫をいふ何法にん 讀人不知

十六夜日記

ふまおすおれ結をほくろくことろけし 結もんぬ君が能因法師

差川記

おれききき結の神をいふはとけぬ恨みお満もま 阿佛

新御題

おれ人のあを結の神をいふはとけぬ恨みお満もま 兼良

あふと結の神のあを結の神をいふはとけぬ恨みお満もま 兼良  
基起  
有栖川宮  
幸仁

結北所屋

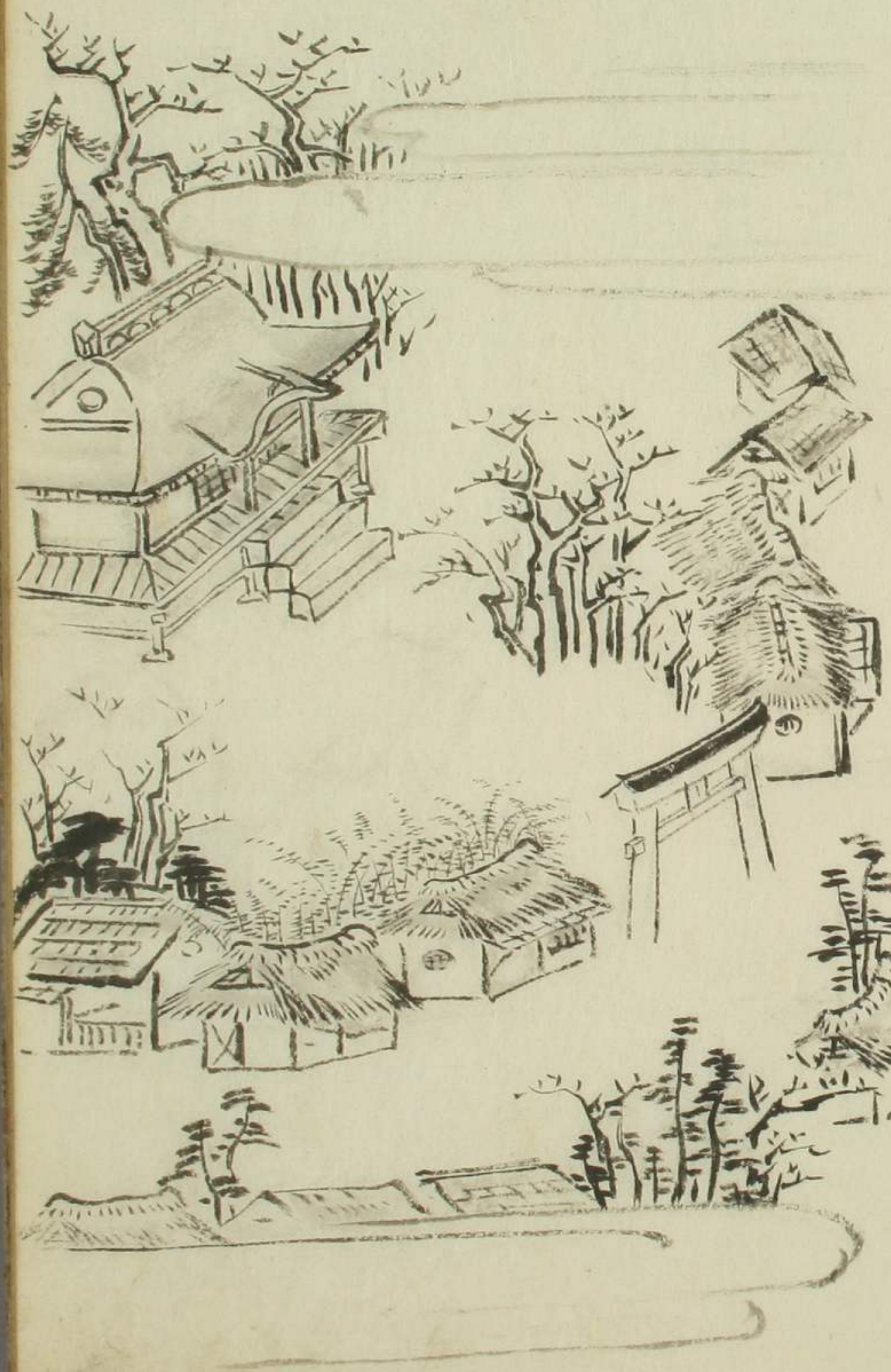
結大明神の御所屋

富子記行

おれ乃結北里の結をいふはとけぬ恨みお満もま 兼良

同

おれ乃結北乃町や 結の神をいふはとけぬ恨みお満もま 兼良



墨俣川 左區より二里東別結村の東小橋く善俣敷北東乃  
しつれの大川舟渡一何河川のり流なり

まればこころや川舟をなして湯のたきやあふりてくま  
うたしとていふやうなれとてまげ川境乃こころとて流るは

斤 斤別より北へあるまゝの流るは此をせうしん 阿佛

まを此世のゆかりのみまゝの流るはやうとうを流して全

号より北の流るは月とてあはれとて流るは波のうた 兼良

川のゆかりの流るは乃とて流るはさうかおれ秋代流るは 兼孝

長橋 大垣の善俣との間小野村小四橋あり住吉のあり流多  
しつれありけり板を投てきとて是をせせり

秋より北の流るは乃とて流るは乃とて流るは乃とて流るは 雅世

主河より北の流るは乃とて流るは乃とて流るは乃とて流るは 全

板よりぬき流るは乃とて流るは乃とて流るは乃とて流るは 兼孝

中川 紀行北順次をたゆまふ今の佐渡り川北事をしん

都より北の流るは乃とて流るは乃とて流るは乃とて流るは

笠縫里 大垣城半里乾赤坂の東南より住吉京都鎌倉集  
の宿敷二今笠縫村の東宿北村とて今代宿北四地と

十六夜日記 旅人まゝの打をくまゝの流るは乃とて流るは乃とて流るは 阿佛

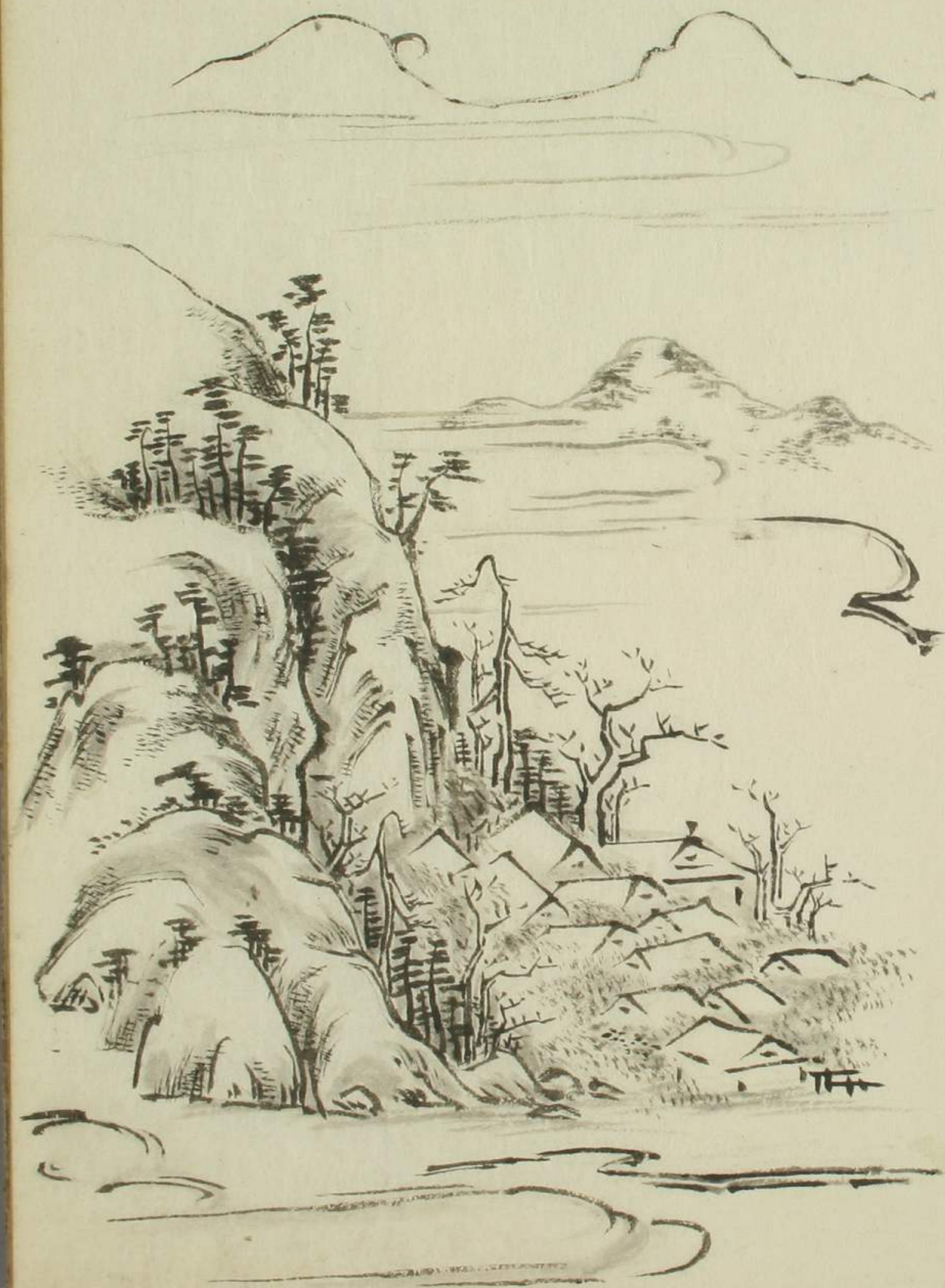
あふり北の流るは乃とて流るは乃とて流るは乃とて流るは 兼良

池田郡

小鳴里 大垣より四里余赤坂の北より高き文和年中  
の丁ら後光厳院行幸乃北なり

小鳴のまゝ 積雪北流るは乃とて流るは乃とて流るは乃とて流るは 良基

兼川記 あふり北の流るは乃とて流るは乃とて流るは乃とて流るは 兼良



夫木集

寢覚見里

小湾北東南赤坂より二里北乃山の麓  
木場の石片山村と云所なり此也

夏川記

風のそよぐやうにそよぐわきとこる寝覚見里に衣たつて 伊勢

郭ら移さぬ此里よやと吹いといえうきらん此北丁を 兼良

赤坂の寝覚見の里に秋に夜あつて此をひきぬ 兼良



木更郡

美江寺

大目山美江寺本尊土面観音住古ハ今此美江寺取小  
あり永徳年中織田信長の命よきて厚見郡今木更郡

美江記

きよきしむね佛に人ふむるのこころをうねむらひのりは兼良

舟來山

今八葉山と稱す

後拾遺集秋

いづれと稱本此山の形多々の秋に之れをふれさるん 右大井通俊

新勅撰集秋下

あつ吹ふ舟の山はむやみとこれのふり色をこころと 権中納言經心

美江記

五日西のしむらを渡らむは舟來山のふり色 兼良



山懸郡

清輔雜談集 三輪神社 三輪村小史

くげくまのまをくわたりてくげの金と何ふ所 神詠

伊左女里 一本今寝又伊左称高富の肉伊左美村地事を今

ふれといふ山のいふはといふ丸小若に云ありはら 八束

車後のいふ此里ハ幼蜂のなる夜ひくみ夜さくも 躬恒

席田郡

新拾遺集買 席田惣して席田の一郡を括する

新勅撰集買 席田より代とわくにて後述も君が齡ふとくも我知事 源師光

席田より山とある田原の千代とみま君齡ふとくも 院太宰大盛家

同物名 ねるぬぬから身とりの出りり田に流のうと何いれん 二葉春在集

兼川記 幾子年とぬぬ流代に席田乃流れらるいと兼川 兼良

雑種林雜中 山とある老ぬぬ田原とて流れぬと兼川とて 敬和

同 馬に馬のまや幾年一席田とぬぬ流るを流の毛を 實隆

伊都貫川

源本巢郡山村より下れり席田郡を流る 中山道往來此道を横すを流河原川へ合也

金葉集買 君が代に幾方代にあやぬぬ流る浮勢貫川の流の毛を 藤原道經

新續古今集買 此後田に貫川乃河を流して白流をいりて久也 後小松院

新土載集買 席田の系貫川の流れ流る事とるを流る事代に後 後登極長經

新續古今集買 田原の正を貫川の流れ流る事とるを流る事代に 惟明親王

續後拾遺集買 席田に貫川よ流る事とるを流る事とるを流る事 太朝言成道



後水尾院勅点初哥集  
 時中多記系世川の五月雨より白濁らん路は元元 日野弘資  
 兼良

方縣郡

雄総橋

古代雄総村北南長良川上橋あり是れ

依神ありてりち著る此屋を此橋を云ふ海に衣笠内大臣  
七夕にあつぬき記於此屋をの橋知りてや海に兼良

江口 長良川乃下流河渡架めを云

昔御も夜よりまきれも又つははれあそひあり 全

厚見郡

往來松 加納宿北西道の南上り

あはれなりと云ひ強に雲ふとらつて程早に云ふ  
中御言實陸  
池も先と云ふに云ふ之を程早に云ふの云ふを云ふ  
中御言有藤

能くはなりや ねも古の人の御事たるを云ふ

名はたての御事ありて年月を云ふはあはれ松乃下之頭并光宗

乃の御事一亦此世の御事もあはれぬ方を云ふ是也遠江守氏朝

と云ふもの御事ありて御事たるを云ふは御事たるを云ふ 参議公長

稲葉山

実早山也稲葉大明神乃社有百人一首拾穂救立別の  
哥此注云日因別濃州而説るれも因別去る下後代  
の力を本云うゆて濃州乃稲葉山を云ふを云ふ

古今集旅

立わかれもよの山は若きなり行半

新古今集旅

立をわかれもよの山は若きなり行半 定家

拾遺愚草

此も秋田の山を云ふは稲葉の山はねの山 全

續拾遺愚草

此も秋田の山を云ふは稲葉の山はねの山 為氏



音たらしふをいふまの生よのまほふもみぬ色は

順徳院

加ふまゝしきこゝに居てよひくうゐるものそは嵐り

伏見院

あふまゝいふまゝにたれ都なるまゝに御りもくもくあは

権細言經年

ふかゝるゝあふまゝにたれ都なるまゝに御りもくもくあは

法眼顯昭

いふまゝにたれ都なるまゝに御りもくもくあは

権細言經年

とみらせし秋はるまの山風はつゆとせふまゝに

源家長

甲のまをけぬはにそふれそふ福のまのまはるまゝ

稻葉山おれあゝやたはらゝん舞葉のまのまはるまゝ

丁のまのまはるまゝのまのまはるまゝのまのまはるまゝ

早ふまゝにたれ都なるまゝに御りもくもくあは

今ふまゝにたれ都なるまゝに御りもくもくあは

為家

旅夜まゝにたれ都なるまゝに御りもくもくあは

通具

まのまはるまゝのまのまはるまゝのまのまはるまゝ

慈回

人ゝまのまはるまゝのまのまはるまゝのまのまはるまゝ

回量

筆此初と終れく終れく終れく終れく終れく終れく

能行

志をいそなるとらぬぬふたのまのまはるまゝのまのまはるまゝ

兼良

稲葉山若此初風流之れく終れく終れく終れく終れく

全

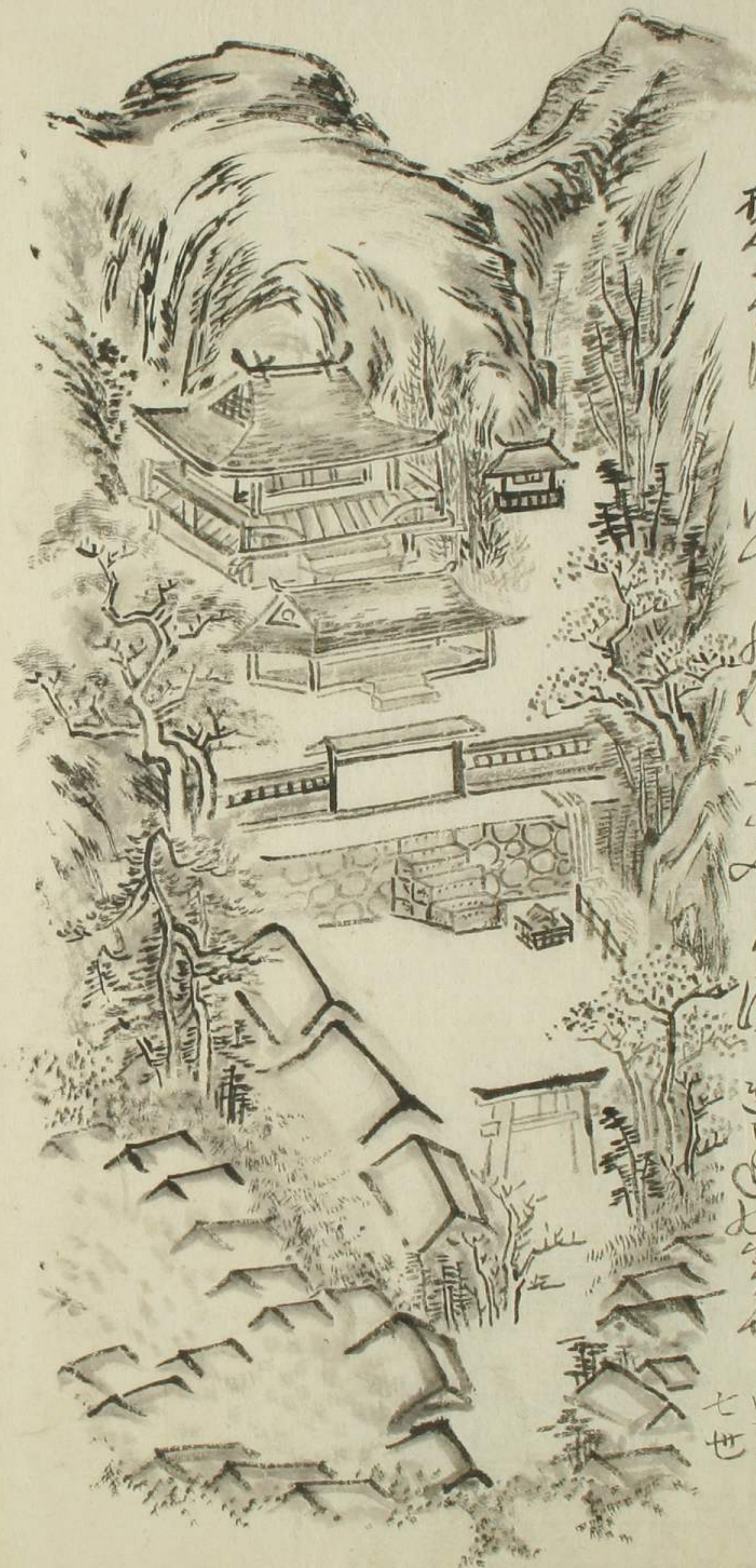
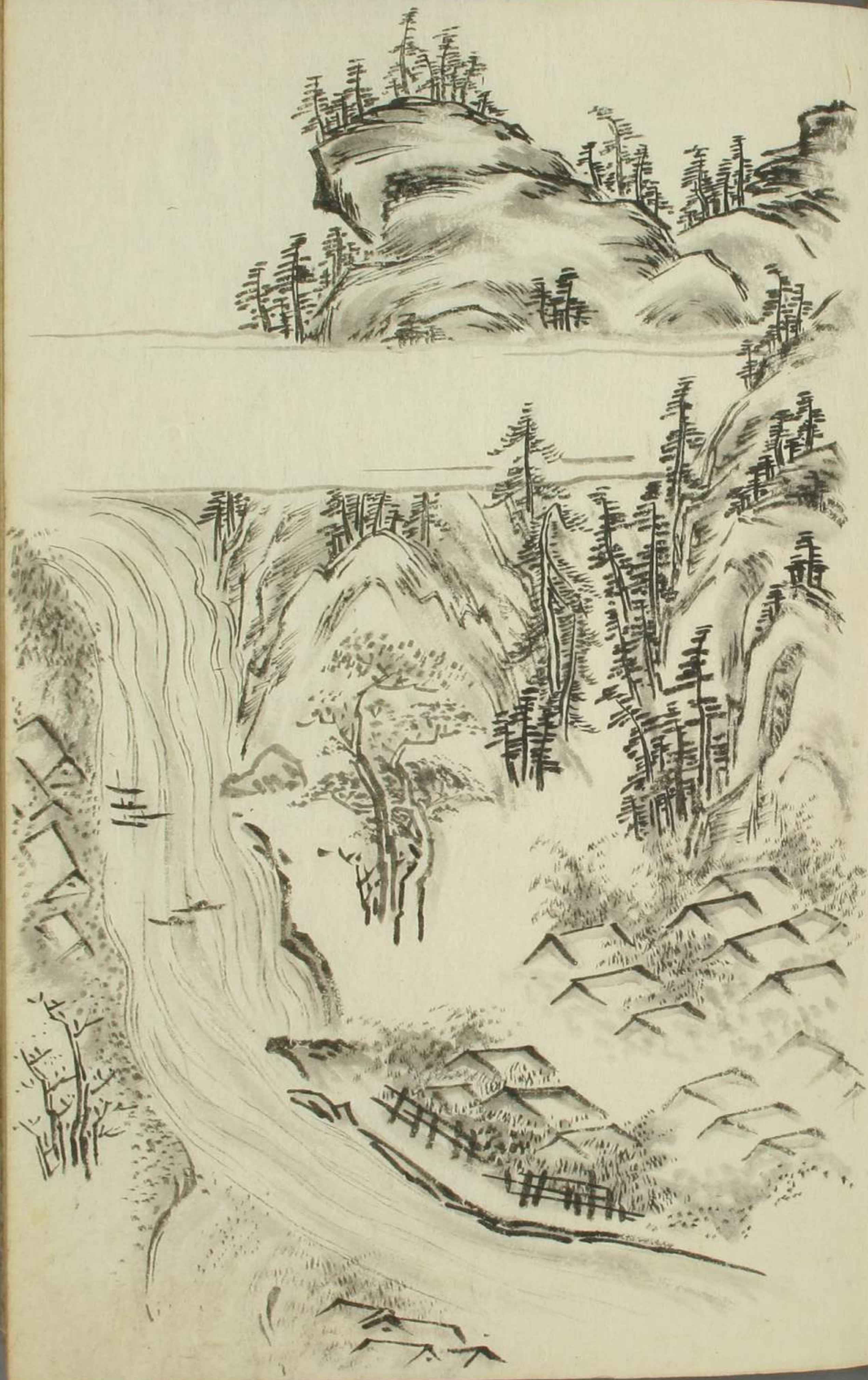
同 同 同 同

新撰哥

小嶋の巻

夏川紀

同



建保寺台

秋の田舎の地を枯くあはれむるの景は如何 行基

大神宮法系十首

ゆきとんといひしをれえいふのみまふれを久しに 鶴尾隆長

葉ををばくく四つれゆきあのみりゆきとんといひしをれえいふのみまふれを久しに 七世 遊行人

武儀郡

母山

神道百首

安阜より二里半北東大矢田村に有神代巻日畏山或曰  
不破郡相川乃東葬送山是也と未詳不否

彦川記

負法乃國畏山ハキウ一邪乃代のりといふハ後彦つゝト部無却  
は中ハ此村ありといふとるふたさす母山といふやむ

各勢郡

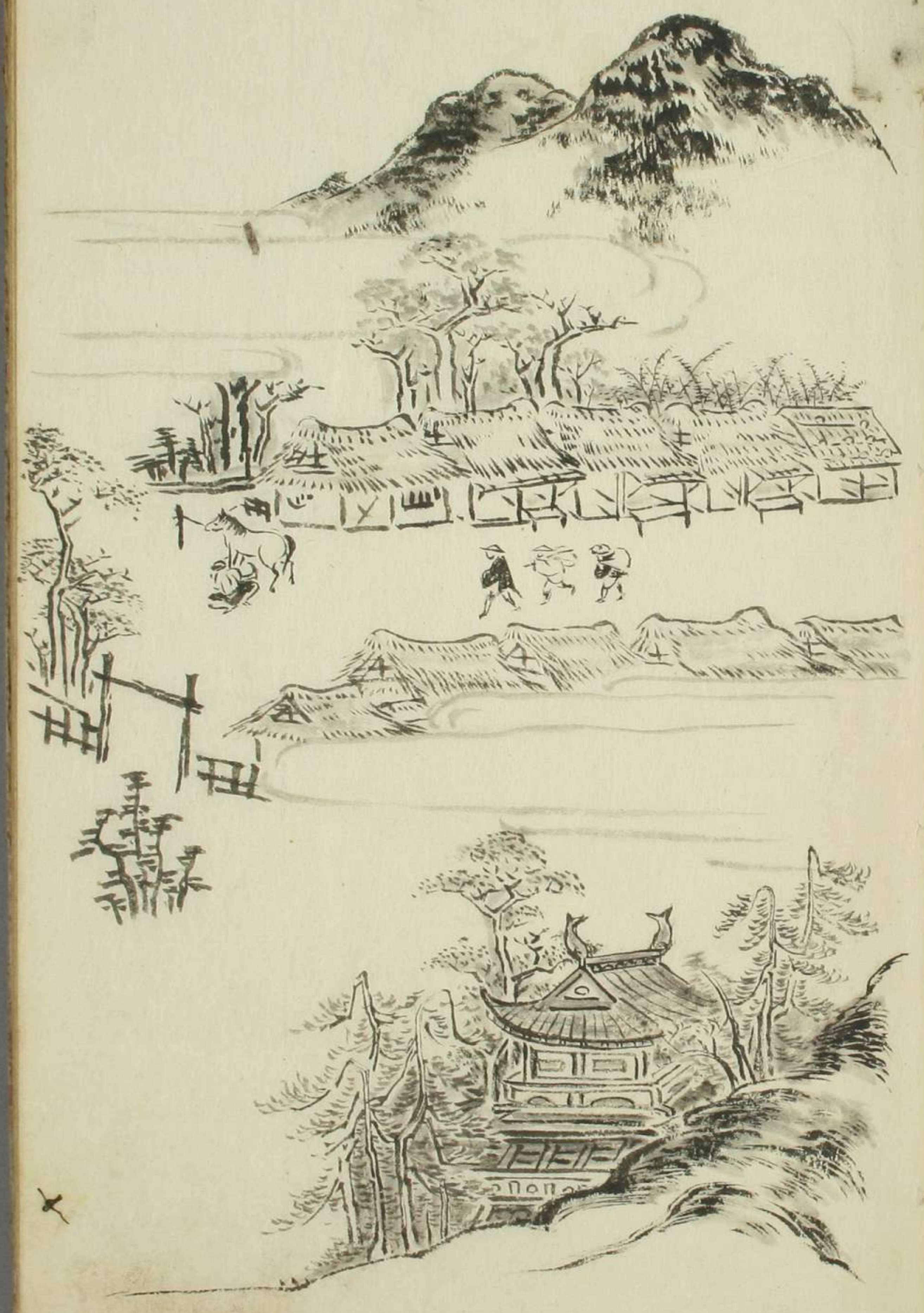
宇留間

彦川記

東海ありとをらるる間といふとふれり人のあはるなり  
東海ありとをらるる間といふとふれり人のあはるなり

源重之

兼良



各勢郡

千載集

岩田小野 岐阜乃東一里各勢郡岩田村小あり

新後撰集

今ハハ徳子出ぬらん東路乃岩田此少中志のこを藤原伊家

ありやいふ岩田此少路ハ隆高可らん是徳子出らん正三位知家

續後拾遺集

々々々れい岩田の少中真言宗より北海に秋風を吹 従三位家隆



可兒郡

萬葉集卷之三十一雜歌

八十一隣宮

或八十一隣池以阜平八里今此久利村也御藏宿此也

百岐年三野之國之高北之八十一隣之宮尔日向尔行

日本記景行天皇四年二月行幸二月還幸為遊覽堀池放鯉之所也

靡闕矣有登聞而吾通路之真磯山三野之山靡得

人雖踏如地依等入雖衝無意上之真磯山三野之山

夫木集

いそひそひそとをたふの池まよむ程か人ふあきゆれつ 讀人不知

たれめちるる利の池工位とましく程今と道のまよむるれ 光頼朝臣

惟子山 惟子村亦有

いそひそひそとをたふの池まよむ程か人ふあきゆれつ 備後

土岐郡

土岐乃大なり

家集

旅人共きりたよのまゆ程まよむるれみまゆり 源重三

夫木集

旅ひをたふ人やとくんちねたまの磯ふ旅のぬれを 仲文

寔山 釜戸村亦有

三の北國かゆの山まよるれと烟たまぬるけを乾

月吉里 岐阜より十二里東南日吉月吉村あり

久とらあはれまふあはるる先をまよる月吉れ里 茂時

夜をたふひふつたまの月吉日吉をまよる 西行

言ふは寝れず物をたれめぬ人ふまよる月吉の里



惠那郡

遠山 岩村乃城下此多也了て遠山の庄をいふ

和名もや都とよはしつれらのを山此處も古語曰て此

花無山

大井坂乃也古野村亦有西行法師三年住居の地ありて  
因て京より廿四里半八丁大井宿あり

只そよふれちん牛れもとい何をもけそとれは元

花形一此山は地多うくのそのの好いよとをいふ

郡上郡

白雲水

俗に宗祇水とふれ亦此多う移回す雲乃其乃みし所  
多いす多う移とて東野列乃乎にうて白雲水と名付

美濃國郡上郡山田庄宮瀬川乃多小泉あり東

野州宮祇小古今傳授持ては所也是草和歌行

詠也えりれ一海也俗呼く泉祇水といふ時合衆

を級女補臺迎領地うそ移也婚初号此道也

巧ふといふ一儀もさる也此泉乃依地をいふ

ふくと移しむまも古級永く世傳つん事也

公卿雲客れ多中一節述く書茶言言此泉

も教もよ及つれをけ路の乃乃かれをく

傳きくうれあもなうくとよといふ子代あまう

はる人一もく思ひ之ぬを臺迎又浩大なるもめ

余姓道乃交う海くさる也その縁がはくもれ

と書ふ海くせぬ

特進光榮

大に此集のむれをききしはくもる此れはむれは  
とれはむれはむれはむれはむれはむれはむれは  
むれはむれはむれはむれはむれはむれはむれは  
むれはむれはむれはむれはむれはむれはむれは  
むれはむれはむれはむれはむれはむれはむれは  
むれはむれはむれはむれはむれはむれはむれは  
むれはむれはむれはむれはむれはむれはむれは  
むれはむれはむれはむれはむれはむれはむれは  
むれはむれはむれはむれはむれはむれはむれは  
むれはむれはむれはむれはむれはむれはむれは

第亭大綱言  
誠季  
鳥丸丞三位  
光栄  
日野任三位  
資叶  
坊城任三位  
俊将  
龍馬中納言  
雅香  
柏原中納言  
光総  
廣橋中納言  
兼胤  
外山從三位  
光和  
凡早正三位  
實積  
芝山正三位  
重豊

むれはむれはむれはむれはむれはむれはむれは  
むれはむれはむれはむれはむれはむれはむれは  
むれはむれはむれはむれはむれはむれはむれは  
むれはむれはむれはむれはむれはむれはむれは  
むれはむれはむれはむれはむれはむれはむれは  
むれはむれはむれはむれはむれはむれはむれは  
むれはむれはむれはむれはむれはむれはむれは  
むれはむれはむれはむれはむれはむれはむれは  
むれはむれはむれはむれはむれはむれはむれは  
むれはむれはむれはむれはむれはむれはむれは  
むれはむれはむれはむれはむれはむれはむれは

岩泉從三位  
為村  
中院左中将  
通板  
園左近中将  
基望  
牛本左中将  
實親  
鳥丸左中弁  
清胤  
長深壹段守  
中将資親  
松平伊三守  
侍從信祝  
松平甲斐守  
侍從吉里  
前田信濃守  
侍從長春  
松平美濃守  
侍從義相



此の地帯の道の平河江くちを水此の地帯あり  
忠喬 松平遠守  
代らうにうらひなほしうしにたうくまめり水此の地帯あり  
松平紀伊守  
なれそのせにうらひなほしうしにたうくまめり水此の地帯あり  
信岑 戸右近將監  
第廿をうらひなほしうしにたうくまめり水此の地帯あり  
氏房  
高永 京極中納言  
忠貞 松平兵庫次  
松平左衛門佐  
俊俊 松平駿河守  
信望 井上遠江守  
正敷  
金栗堂通

附録

西濃不破郡中山乃東の林兼表作村といふ所に住世日  
文明八年宗祇法師とて所ありて連号乃千句抄  
郡上郡滞此村の以てうらひなほしうしにたうくまめり水此の地帯あり

表作千句巻首

花と雲とてあかぬ天は凡 五月のうらひなほしうしにたうくまめり水此の地帯あり 宗祇

第二巻の

むし入山口志海見一本うら 宗祇 ねむく道ふらうらひなほしうしにたうくまめり水此の地帯あり 紹永

東濃武儀郡関吉田合別院小宿といふ此の地の  
むし入山口志海見一本うら 宗祇 ねむく道ふらうらひなほしうしにたうくまめり水此の地帯あり

関とえのうらひなほしうしにたうくまめり水此の地帯あり 宗祇

大我野

在野武列

宗祇法師の名所方申抄に生れり當國中未少恐く八和対  
見野のうらひなほしうしにたうくまめり水此の地帯あり

馮里

具原氏和尔雅不載る者所をうらひなほしうしにたうくまめり水此の地帯あり  
白羽郡代りあり古きと又同名あり合さう

玉れ姑の思ひ絶るあつこしにれめの里ふまをうら 肥後  
ふ分のちのいさの歌とつよよに夜をきけめのつとつと

鏡池

豊原北西三里北方村日鏡寺の境内にあり亦江別上り境の比  
あり古哥又国号を稱する又傳る由は未詳  
近江大和山城も同名有

併ふんはをかしむるはとて境の比ふらうらうらとて

謙徳公

此御孫山城國愛宕郡加茂村あり境の比ふらうら

日高松 紀伊国日高郡其所未詳

昔のてくれ日高松のまふをまふにれれ今にあやん 光俊

今持ちにけ哥ありといへも国号を孫合を元を日高松とて  
當國中ふまふ八雲郡抄下近江国梓乃松を以て國の終り今れり  
彼梓の松はらほ松を處るるり里余殊ふ千載集は能因法師  
乃教ふまふ本引梓乃松をまふ入る物波乃海をまふらうら  
よめり日高の松とまふまふと稱しこれとて日高の松とては別

梓乃松の別をふして梓と日高と同布二名あるを八雲抄乃松下  
但して梓乃松をはれの松と日高の松をよほまはる所と誤り  
まふまふいふかひらうら

長山 正地證哥未勘

先ふいふ家へ乃集うけやまはる國名勝乃ま  
十餘軒城画景ありあり古記歌を文(ま)  
一建あり地まう此四地を考つ可はゆめふ集  
まののまはる國地まはる記報まはるは又ま  
まのまはる記報四考を送るまはるまはるまはる  
まはるまはる記報まはるまはるまはるまはる

照正とまはるまはるまはる

大宛のこころをいかに愛さしむるを拾ひたて  
いかに今人の心を集め候へばその心  
中半の積をいかに死にまじへん乃志を福と  
たふさく和末

濃州不破郡中山東宮

延享三年乙亥秋七月

節甫主人戲也

和末  
玉口



張之洞長樂堂書

一

